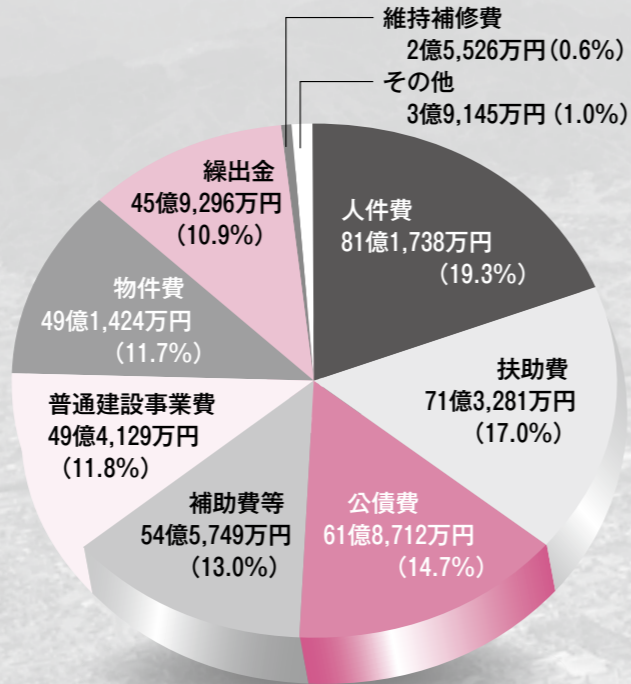


その他の会計

特別会計	252億951万円
国民健康保険	103億2,659万円
介護保険	74億7,216万円
下水道事業	54億8,684万円
後期高齢者医療	12億 888万円
農業集落排水事業	2億3,240万円
簡易水道事業	2億2,828万円
食肉処理センター	2億2,149万円
全本明正奨学金	1,116万円
公共用地取得事業	1,081万円
土地取得造成事業	523万円
老人保健	307万円
磯野計記念奨学金	260万円
財産区会計	1,415万円
水道事業会計	50億1,019万円
工業用水道事業会計	3,375万円

平成21年度予算は
市民1人当たり*
約66万円 ※109,448人
(3月1日現在)で計算

◆性質別に歳出を見ると…



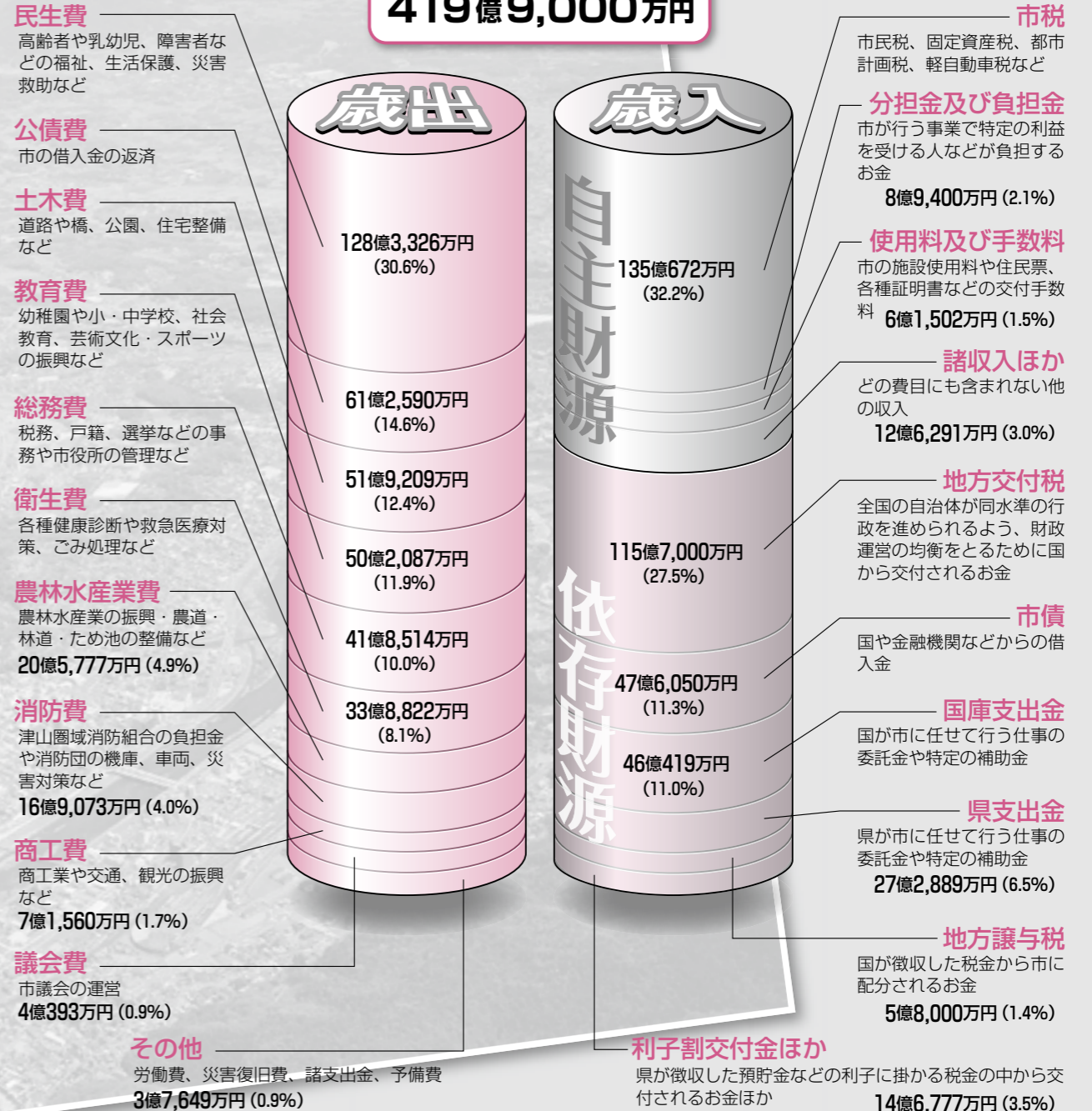
用語の説明

- 一般会計** 福祉や教育、道路整備やごみ処理など基本的な市の事業を行う会計
- 特別会計** 特定の事業を行うために特定の収入をその支出に充てるため、経理を独立して設ける会計
- 財産区会計** 山林などを所有し、その管理や処分を目的とした特別な地方公共団体の会計
- 水道事業会計** 水道事業から得られる収入で浄水や給水などの費用を賄う独立採算制の企業会計
- 工業用水道事業会計** 久米産業団地に立地する工場への給水事業の企業会計

- 人件費** 職員や特別職の給与、議員・各種委員会委員の報酬など
- 扶助費** 生活保護費や児童手当、医療費などに使うお金
- 公債費** 道路や公共施設などの整備のため借り入れた市債の返済に充てるお金
- 補助費等** 各事業や団体への補助金や負担金に使うお金
- 普通建設事業費** 道路や橋、学校、公園などの建設・整備に使うお金
- 物件費** 業務委託料・使用料や物品調達などに使うお金
- 繰出金** 国民健康保険や下水道事業などの特別会計へ繰り出すお金
- 維持補修費** 市の施設などの補修に使うお金
- その他** 投資及び出資金、貸付金、災害復旧費、積立金

一般会計

419億9,000万円



さらに徹底した行財政改革は不可欠！
メリハリのある予算編成を行い、重点的・効果的な財源の配分に取り組みます!!

今後の財政見通し
百年に一度と言われる経済危機の中で、地域の実情に応じた景気対策などを適切に実施していく必要があります。
これまで、財源不足を解消するため徹底した歳出削減などにより予算額の圧縮に努めてきましたが、市税の減収など津山市の財政運営は一段と厳しさを増しています。この財源不足は今後も継続する見込みですが、財政秩序を保持し、国の政策との連携を保ちながら、財政運営を行ってまいります。

- point 歳出**
- 物件費と維持補修費は、景気対策などに一定の配慮をし、前年度とほぼ同額
 - 扶助費は8538万円増、補助費等は3914万円の減
 - 普通建設事業費は、総合計画・中期実施計画採択事業を中心に計上し、4億2612万円増の49億4129万円。9.4%の大幅増

- point 歳入**
- 市税は、法人市民税の減収と固定資産税の評価替えなどを踏まえ、3億2661万円減の135億672万円(▲2.4%)
 - 普通交付税は、生活防衛のための緊急対策に基づく1兆円が加算されるため増額を見込み、4億1000万円増の104億2000万円(4.1%)
 - 市債は、臨時財政対策債と景気対策などによる普通建設事業費の増額に伴い、9億1340万円増の47億6050万円(23.7%)

予算の特徴
前年度比3億7700万円、0.9%増
厳しい財政状況下にはありますが、景気対策などに配慮して、予算額を3年ぶりに増加させた積極型の編成にしました。
財源不足に対処
事務事業の選択と集中による「メリハリのある予算編成」、行財政改革の推進を柱とする「徹底した歳出の見直しと削減」に努めました。
「いあわせ大國つやま」の実現を目指して
第4次総合計画の中期実施計画に採択された事務事業を最大限尊重しました。
景気対策に配慮
景気対策の一環として「緊急雇用創出事業」「ふるさと雇用再生特別事業」を実施します。
財政調整基金の取り崩し
依然、財源不足が生じていることから、財政調整基金から3億円を取り崩し、予算編成を行いました。